

2008年の大雨

夏を中心に各地で豪雨や局地的大雨がたびたび発生

1. 概要

2008年（平成20年）の梅雨入りは、沖縄・奄美と東北地方ではかなり遅く、西日本と東日本ではかなり早かった。梅雨明けは早いところが多かったが、北陸地方と東北南部はかなり遅かった。梅雨前線は、5月と6月は日本の南の海上に停滞することが多かった。7月は平年に比べ活動が弱かったが、下旬には北陸から東北にかけて停滞し、局地的な大雨となったところがあった。梅雨時期の降水量は、6月は九州南部、関東甲信地方でかなり多く、東北南部でかなり少なかったが、そのほかは平年並のところが多かった。7月は西日本と東日本でかなり少なかった。

また、2008年は、夏を中心に各地で豪雨や局地的な大雨がたびたび発生した。特に、8月26日から31日には西日本から北日本の各地で、短時間に非常に激しい雨が局地的に降り、愛知県を中心とした住家の浸水など甚大な被害が発生した。気象庁は、8月26日から31日に発生したこの豪雨を「平成20年8月末豪雨」と命名した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。ただし、台風によるものは、別途、「台風」で記載した部分を参照のこと。なお、降水量を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、総務省消防庁等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 6月19日～25日：西日本、東日本、東北地方 ＜梅雨前線、低気圧＞

6月19日から25日にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、九州地方を中心とした西日本から東日本の太平洋側と東北北部から北海道で大雨となった。

19日から22日は、梅雨前線が対馬海峡から関東南部

に停滞し、低気圧が前線を東に進んだ。九州地方を中心に中国地方、近畿地方や東日本の太平洋側で大雨となった。24時間雨量は、19日に佐賀県佐賀市で182.0 mm、22日には熊本県甲佐町で295.0 mm など、九州地方の各地で200 mm 前後の雨量となり、1時間雨量は、19日に佐賀県嬉野市で83.5 mm（観測史上1位）の猛烈な雨が観測されるなどした。23日は、梅雨前線の低気圧が関東の東海上から三陸沖へ進み、24日から25日には、三陸沖の低気圧が梅雨前線から離れて北東へ進み、梅雨前線の別の低気圧が九州の西海上から四国沖に進んだ。九州南部や東北北部から北海道で大雨となり、24日には岩手県洋野町種市で201.0 mm の24時間雨量が観測された。

この大雨により、九州地方を中心に土砂災害や浸水害が発生し、22日には熊本県多良木町で土砂災害により1名が死亡した。住家被害は、佐賀県、熊本県、京都府を中心に床上浸水85棟、床下浸水1,087棟となった。また、各地で農業・林業被害や鉄道の運休などの交通障害が発生した。

(2) 7月1日～5日：九州、四国、近畿、東海地方、北海道 ＜梅雨前線、大気不安定＞

7月1日から5日にかけて、黄海付近から西日本へのびた梅雨前線の活動が活発となり、日本付近の上空に寒気が流れ込んで大気の状態が不安定となった。九州地方、近畿地方、東海地方を中心に大雨となり、また、西日本から北日本の各地で激しい雨が降った。4日には静岡県富士市で1時間に112.5 mm（観測史上1位）、5日には長崎県壱岐市石田で1時間に102.0 mm の猛烈な雨を観測するなどした。

この大雨により、土砂災害や浸水害が発生し、住家被害は広島県や静岡県を中心に床上浸水72棟、床下浸水435棟となった。また、静岡県、岡山県などでは鉄道の運休など交通障害が発生し、落雷により鹿児島県始良町では4日に1名が死亡、北海道、静岡県、京都府では停電の発生があった。

(3) 7月6日～9日：近畿地方から北日本
 <大気不安定>

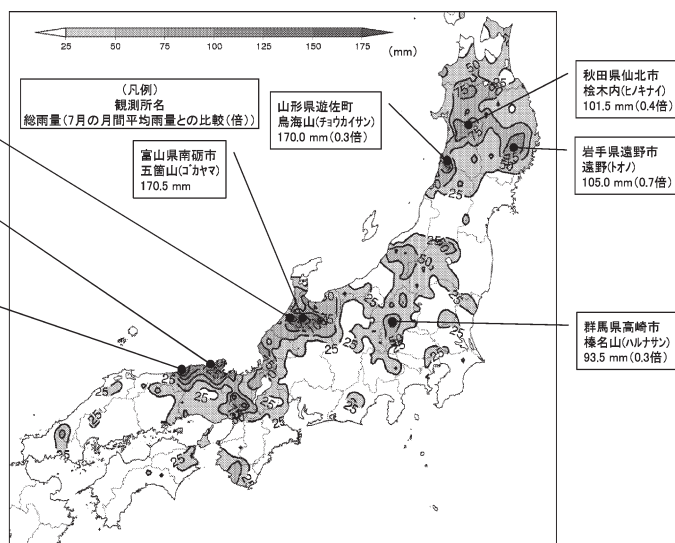
7月6日から9日にかけて、寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で、近畿地方から北日本で大気の状態が不安定となった。このため、各地で局地的な大雨が発生した。1時間雨量は、7日に岩手県久慈市山形で62.5 mm（観測史上1位）、8日に石川県金沢市医王山で76.0 mm、富山県富山市八尾で64.5 mmなど、雷を伴った非常に激しい雨が観測された。

この期間、8日には、東京都大田区呑川の河道内で工事中の作業員が急な増水により流され1名が死亡、富山県立山町では増水した川に流された1名が死亡、6日には山形県高島町で落雷により住宅1棟が全焼し1名が死亡した。また、富山県を中心とした各地で土砂災害や浸水害が発生し、鉄道の運休等の交通障害や落雷による停電もあった。住家被害は、床上浸水11棟、床下浸水377棟となった。

(4) 7月27日～29日：四国、中国地方から東北地方
 <前線、大気不安定>

7月27日から29日にかけて、日本付近は上空の寒気と日本の南海上に中心をもつ高気圧の縁を回る暖かく湿った空気により大気の状態が不安定となり、中国、近畿、北陸および東北地方を中心とした各地で局地的な大雨となった。特に28日は、山陰沖から関東付近に停滞する梅雨前線の活動が活発となったことで、北陸地方や近畿地方を中心に大雨となった。石川県金沢市医王山では5時から8時までに110.0 mm、富山県南砺市五箇山では5時から10時までに142.5 mmの雨が降り、また、京都府京丹后市峰山では1時間に81.0 mmの猛烈な雨が観測された。29日は中国地方の一部で大雨となり、鳥取県岩美町岩井では7時から12時までに117.5 mmが観測された。第1図に総雨量分布図を示す。

この大雨により、27日には群馬県みなかみ町で溪流の急速な増水により死者・行方不明者がそれぞれ1



第1図 総雨量分布図 (期間：7月27日～7月29日)。

名、28日には兵庫県神戸市の都賀川で急速な増水により死者5名の他、大雨となった各地で浸水害や土砂災害、農業・林業被害が発生した。28日の石川県金沢市の住家被害は、浅野川などのはん濫により床上浸水507棟、床下浸水1,486棟に上った。また、27日から28日には近畿地方から東北地方の各地で、発達した積乱雲の通過に伴って発生した突風による被害があり、福井県敦賀市では27日に突風(ガストフロント)によってイベント用大型テントが飛ばされ1名が死亡した。さらに、落雷による被害も発生し、兵庫県姫路市では1名が死亡し、四国地方、中国地方から東北地方で大規模な停電の発生があった。

(5) 8月4日～9日：西日本、東海地方、関東甲信地方
 <前線、大気不安定>

8月4日から5日にかけて、中国地方から東北地方には前線が停滞し、また、日本の南海上には西に進む低圧部があって9日には東シナ海に達した。この低圧部周辺の暖かく湿った空気の流れ込んだ西日本から東日本では大気の状態が不安定となり、4日から9日にかけて、九州、四国、近畿、東海および関東甲信地方を中心に局地的な大雨となった。

4日から5日にかけては、前線の影響で関東甲信地方を中心に大雨となり、4日には山梨県大月市で1時間に79.0 mm（観測史上1位）、5日には東京都千代田区東京で1時間に59.5 mmの非常に激しい雨が

降った。6日は関東北部や近畿地方を中心に大雨となり、大阪府枚方市では1時間に71.5mm(観測史上1位)が観測された。8日から9日にかけては、九州地方を中心とした大雨となり、8日には福岡県福岡市博多で1時間に62.5mmの非常に激しい雨が降った。

この大雨により、5日には東京都豊島区の下水管内で工事中の作業員が急速な増水により流され5名が死亡、6日には栃木県那須烏山市の荒川で増水により流された1名が死亡した。大雨となった各地では浸水害や土砂災害、農業被害が発生し、6日には大阪府で枚方市を中心に住家の床上浸水272棟、床下浸水3,350棟の被害があった。また、6日には長野県中央アルプス檜尾岳で、9日は富士山で登山者が落雷に遭いそれぞれ1名が死亡、4日には山梨県のほぼ全域(約56万4,800世帯)で停電するなど、落雷による停電や負傷者等が各地で発生し、交通機関にも大きな影響があった。

岐阜県では発達した積乱雲の通過に伴い突風による災害が発生した。8日19時45分頃に岐阜市で藤田スケール[†]F0～1と推定される突風(ダウンバーストまたはガストフロント)が発生し、住家の一部損壊5棟や倒木、ビニールハウス損壊などの被害があった。同時刻頃には美濃市でも藤田スケールF1と推定される突風(ダウンバースト)が発生し、倒木などの被害があった。また、20時00分頃には関市や岐阜市で藤田スケールF0と推定される突風が発生し、車庫の損壊や樹木の折損などの被害があった。

(6) 8月13日～17日：九州，中国，北陸，関東甲信，東北地方 <熱帯低気圧，前線，台風第11号>

8月13日は、朝鮮半島付近から日本海北部にかけて前線が発生し、熱帯低気圧がその南を北東へ進んだ。また、東シナ海を別の熱帯低気圧が北上し、沖縄地方では大雨となった。14日から15日には、熱帯低気圧が日本海から東北北部を通過して三陸沖へ進み、日本海から北海道付近に停滞した前線が東北地方までゆっくりと南下した。このため、東北地方の日本海側で大雨となり、特に山形県では記録的な大雨となった。山形県の24時間雨量は、15日に庄内町狩川で観測史上1位

を更新する429.0mmに達し、酒田市浜中で1時間に75.5mmなどの非常に激しい雨が観測された。また、15日15時には日本の南海上で台風第11号が発生した。16日から17日は、日本海沿岸から東北地方へのびる前線が九州地方から本州南岸まで南下し、16日に八丈島の南海上を東北東へ進んだ台風によってもたらされた暖かく湿った空気の流れ込みによって大雨となった関東地方をはじめ、九州地方、中国地方、北陸地方でも大雨となった。また、13日から17日にかけては、沖縄地方から東北地方で大気の状態が不安定となる日が多く、各地で短時間に非常に激しい雨が降った。

この期間、各地で土砂災害や浸水害が発生し、住家被害は富山県、栃木県、山形県などで床上浸水56棟、床下浸水546棟となった。また、山形県を中心に農業被害、林業被害や鉄道の運休などによる交通障害が発生し、広島県や関東地方では落雷による大規模な停電が発生した。16日には栃木県鹿沼市で東北自動車道のアンダーパスが冠水し、乗用車が水没して1名が死亡する事故が発生した。

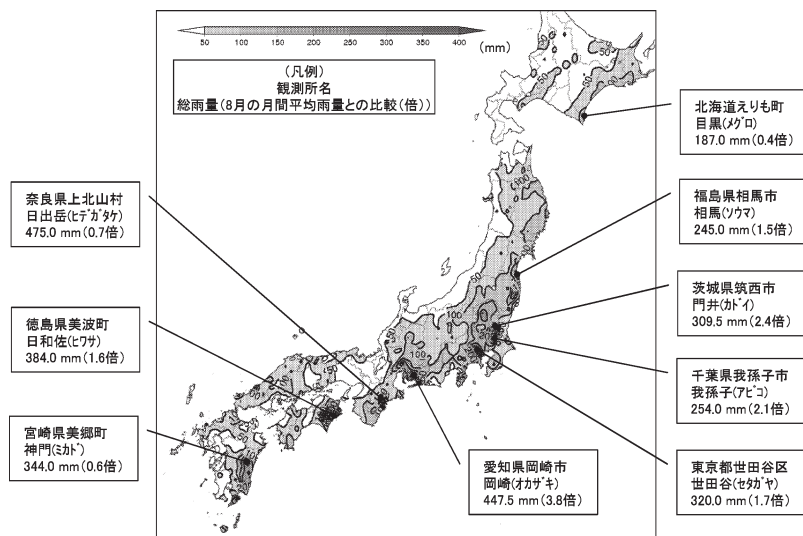
(7) 8月26日～31日：西日本から北日本

<前線，低気圧，大気不安定，竜巻>

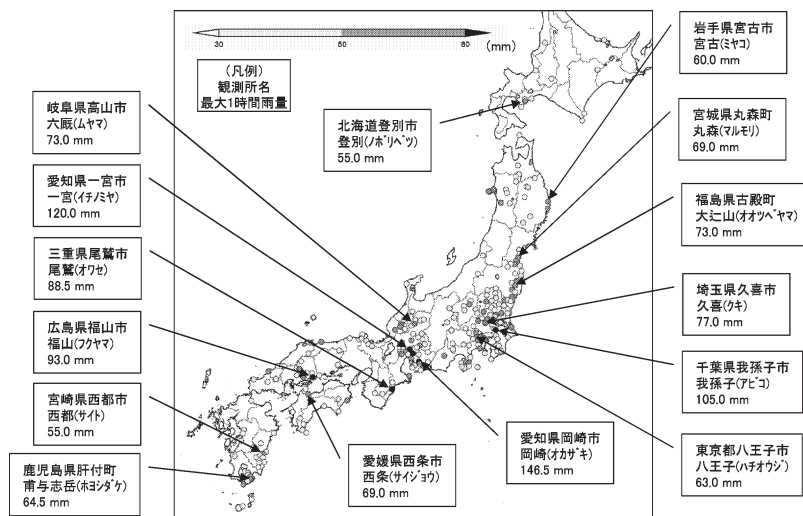
8月26日に低気圧が東シナ海を東に進んで九州南部に接近し、27日にかけて南海上からの暖かく湿った空気が西日本の太平洋側を中心に流れ込み大雨となった。また、この低気圧が日本の南海上に進んだ28日から31日にかけて、本州付近に停滞した前線に向かい南海上からの非常に湿った空気の流れ込みが強まり、さらに、上空には寒気が流れ込んだことから大気の状態が不安定となって、中国、四国、東海、関東および東北地方などで記録的な大雨となった。第2図に総雨量分布図を示す。この期間、短時間に非常に激しい雨が局地的に降り、1時間雨量の記録を更新した地点が全国で21か所に上った。愛知県では28日に一宮市で120.0mm、29日には岡崎市で1時間雨量の全国歴代7位となる146.5mmの猛烈な雨が観測された。また、29日には広島県福山市で93.0mm、30日には千葉県我孫子市で105.0mmの1時間雨量が観測された。第3図に期間最大1時間雨量分布図を示す。

この大雨により、愛知県岡崎市では伊賀川の増水による住家の浸水で2名が死亡したほか、各地で浸水害や土砂災害、農業・林業被害、落雷による停電等が発生し、鉄道の運休など交通機関にも大きな影響が出た。住家被害は、愛知県では岡崎市を中心に床上浸水

[†] 藤田スケール：竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学元教授の故藤田哲也氏により昭和46年(1971年)に考案された風速のスケールで、F0は風速17～32m/s(約15秒間の平均風速)、F1は風速33～49m/s(約10秒間の平均風速)の強さを表す。



第2図 総雨量分布図 (期間：8月26日～8月31日)。



第3図 期間最大1時間雨量分布図 (期間：8月26日～8月31日) (30 mm以上の1時間雨量が観測された地点のみ)。

F1と推定される竜巻が発生し、住家一部損壊1棟やプレハブ小屋の飛散などの被害があった。

気象庁では、8月26日から31日までの期間に発生した豪雨を「平成20年8月末豪雨」と命名した。

(8) 9月2日～3日：近畿地方、東日本、東北地方

<大気不安定、低気圧>

9月2日から3日にかけて、低気圧が四国沖をゆっくり北東へ進み、低気圧周辺の暖かく湿った空気が日本海にある別の低気圧に流れ込んだ。このため、西日本から北日本にかけて大気の状態が不安定となり、岐阜県や三重県を中心に四国地方から東北部の各地で大雨となった。3日に観測された24時間雨量は、岐阜県揖斐川町小津では9月の月間平均雨量(415.2 mm)を超え、1時間に90.0 mmの猛烈な雨を含む433.5 mm、三重県菰野町雲母峰では1時間に83.0 mmの猛烈な雨を含む234.0 mmなどとなった。また、3日には福島県会津若松市でも1時間に75.0 mm(観測史上1位)の非常に激しい雨が観測された。

1,124棟、床下浸水3,147棟(名古屋市を除いた集計。名古屋市の被害は床上浸水1,149世帯、床下浸水8,071世帯)に上り、また、関東地方では埼玉県や千葉県を中心に床上浸水480棟、床下浸水3,847棟に達するなど、中国、東海、関東、東北地方などで被害が発生した。

また、茨城県では発達した積乱雲の通過に伴い竜巻が発生した。28日16時55分頃にはつくば市で、また、同日20時00分頃には土浦市で、それぞれ藤田スケール

が観測された。

この大雨により、岐阜県を中心に浸水害や土砂災害が発生し、住家被害は床上浸水32棟、床下浸水266棟となった。また、愛知県や岐阜県などで農業・林業被害があり、各地で鉄道の運行に支障が出るなど交通機関にも影響があった。落雷による停電等も各地で発生した。

(気象庁予報部予報課)